

# 社会的価値判断・意志決定の力を育む社会科学習 － TPP について価値判断し、これからの食料生産について 意志決定する子の姿をめざして－

岐阜市立木之本小学校 椿 倉 大 裕  
社会科教育講座 須 本 良 夫

## 1 はじめに

昨年（2015年）、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた。若者の投票率の低さが指摘される中で、世の中は、若者が政治への関心を高め、主体的に社会に参画することを一層求めている。「知識基盤社会」といわれる現代社会は、今まで以上に激しく変化し、未来を予測することが困難な時代に突入している。グローバル化や情報化の急速な進展、技術革新により、人々の価値観やライフスタイルは多様化した。それに伴い、現代社会には、経済・福祉・防災・環境・国際関係等、枚挙に暇がないほど問題が山積している。これらの問題は、様々な地域・世代による価値観の違いによって正解が異なり、合理的な解決が困難なものがほとんどである。変化の激しい社会において、主体的に社会に参画する子供たちを育てていくために、社会認識を育成し、公民的資質の基礎を養うことを目標としている社会科が担う役割は大きい。

こうした時代における学校教育の在り方が問われている中で、平成27年8月の教育課程企画特別部会による論点整理では、新しい学習指導要領の在り方を示した上で、特にこれからの時代に求められる資質・能力として、「様々な情報や出来事を受け止めて主体的に判断する」「他者と一緒に生き、課題を解決していく」力が必要であることが示された。

そこで、本研究では、現代社会の変化を踏まえ、これからの社会で求められている資質や能力を育成するための、社会科指導の在り方について考えていきたい。

## 2 研究テーマ設定の理由

### (1) 社会科の本質から

社会科の究極的なねらいは、「公民的資質の基礎を養う」ことである。これは、幾多の改訂を経ても変わらない不易のものである。『小学校学習指導要領解説 社会編』では、公民的資質を次のように説明している。「公民的資質は、平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりするなどの資質や能力の基礎を含むものと考えられる。」

また、現在の学習指導要領の改訂にあたっては、公民的資質の基礎に含まれるものとして、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと」が重視されるようになった。先に述べた現代社会の様相と、求められる資質・能力を鑑みた際に、これからの社会科において公民的資質の中核をなすものとして大切にしていかなければならないのは、教室の学習に留まらず、社会生活の中でも、様々な情報を批判的に吟味・解釈し、多様な価値の中で公正な判断ができ、主体的に社会へと参画できるようになる態度や能力である。

子どもたちが、成人になるころには、現在よりも変化の激しい社会に出くわすであろう。そこでは、日常的なものから、社会的な論争問題に至るまで、様々な判断が必要になる。特に社会的な論争問題等の高次な判断を問われる場面においては、立場が分かれ、どちらの言い分もわかるために判断に迷う場面も多くなる。そういった問題に正解はないため、自分なりに価値を吟味・判断し、その判断に基づいた意思決定を行わな

なければならない。こういった状況に適切に対処し、よりよい社会を形成するために、主体的に生きていく子どもを育てていくためには、社会科の授業において、意図的に価値判断・意思決定を迫る場面を仕組み、社会に参画していこうとする意識を高めていくことが大切である。

しかし、初等の授業においては、こうした授業を念頭に置いた単元構成がなされることは少ない。その理由として現場で議論されることは、中等の公民でやればよい、初等の授業では難しい、社会科が専門ではない、学習指導要領・教科書にあまり触れられていないなど、これまでの授業をしておけばよいという紋切り型の理由である。当然、意思決定型の授業への単元・一単位時間の構成方法、学習者への対応、教師の支援方法など研究すべきことが蓄積されてこなかった。

そこで、今日的課題をふまえて社会科の本質に迫るために、社会的価値判断・意思決定の力を育てる授業をまず提案していくことが必須であると考え、本稿では小集団交流とICTの活用の在り方を含めたアクティブラーニングの在り方、その時の学習者への指導・援助の在り方に焦点を当て提案を行っていく。

## (2) 社会的価値判断力・意志決定力とは

本研究では、社会的価値判断力・意思決定力を、それぞれ次のようにとらえている。

### 【社会的価値判断力】

社会的事象（特に社会問題）について、身に付けた知識・技能を基に、様々な情報を分析し、自分なりの意見を表現する力。

### 【意思決定力】

社会的な価値判断を基に、社会問題の解決策について、よりよい社会の形成に向けて自分の意思や行動を表明する力。

実社会において判断を問われる場面では、独り善がりの判断であったり、その場の思いつきの判断であったりしてはならない。そうならないために、社会的価値判断・意思決定の力を育てていくために、社会科の授業では、社会問題を取り上げ、それについて議論する場を設定していくことが必要である。

社会問題について議論する場では、まず、他の子との価値の相違に気付かなければならない。その上で、建設的な議論を通して、他者の意見を批判的に考えたり、留保条件をつけて判断したりして、自分なりの価値を形成していくことが大切である。つまり、社会的価値判断力を付けるためには、科学的な根拠のない判断ではなく、それまでに身に付けた知識・技能を基に、社会問題を科学的に分析した結果を根拠として、判断する力が必要になる。また、判断したことを頭の中に留めておくだけでは、自分なりの価値を形成することができたとは言い難い。自分の意見を分かりやすく説明する表現力を身に付けることも、社会的価値判断力を身に付けるために、大切なことであると考えられる。

意思決定力は、価値判断したことを基に、自分の意思や行動を表明することによって育っていく。ただし、ここでの意思決定は、よりよい社会を形成するための意思や行動であることが求められる。他者の価値観や立場をふまえて、対立する内容を理解し、整理したり折り合いをつけたりして、問題を解決しようとする力が、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育てることにつながる考えた。

## (3) これまでの実践から

では、初等社会科で研究テーマとしてよく取り上げられる「社会生活の理解を確かなものにする子どもの育成」といった場合、価値判断や意思決定能力の育成については扱われるだろうか。上述したように、理解の中には多くの場合、資質や態度の育成については議論がされない場合がほとんどである。価値対立や対立意見の合意形成についても扱われることはない。つまり、初等社会科では社会認識が中心である。

これまでの初等社会科は、地域素材から特定の人物を取り上げて教材化し、その人物の願いに共感することを通して、社会認識を深めていくような単元の構成や、小集団交流、論点を明確にした話し合い活動を仕組み、社会的事象の意味を自分の言葉で表現できるような指導・援助が議論の中心であった。

社会認識の育成は、社会科の場合、非常に重要である。教材化した人物に憧れをもち、社会生活を理解することで、地域に愛着をもったり、学習したことを家族に広げたりする学習者の姿が多く見られ、それがこれまでの初等社会科の貴重な財産である。一方で、そうした学習は人物への共感が深く肯定的にとらえるあまり、資料について批判的な思考力が育ちづらいこと、身に付けた知識・技能を他の事象に活用して考えることなど、つけない力が他にあったことも事実である。

小学生の発達段階として無理な部分は避けつつ、これからの社会に必要な資質や能力の育成という視点に立って考え、そこで身に付けた知識・技能を基盤として、価値判断・意思決定をしていくなかで互いの異なる考えを議論していく力を付けることがこれからの授業では必要と考えた。

### 3 実践 5年生「これからの食料生産とわたしたち」について

#### (1) 単元の概要：食料自給率を考える

学習内容は、小学校学習指導要領「社会編」第5学年の内容(2)のアを受け、設定したものである。本単元は、日本の食料生産について、食料自給率の問題や、貿易にかかわるグローバルな視点から、これからの日本の食料生産について考え、生産者による工夫や努力だけでなく、外国とのかかわりの中で、食料を確保していかなければならないことに気付くことを目的としている。

日本の食料生産をめぐる問題は様々である。食料自給率、食の安全・安心、貿易自由化などの食に関する問題だけでなく、高齢化・後継者不足、耕作放棄地の拡大など、生産者に関する問題もかかわってくる。また、2015年10月に妥結された、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）は、交渉開始当初から、国際的な競争力に劣る日本の農業関係者から、根強い反対があった。グローバルな視点から食料生産について考える上で、日本の食料生産の転換点ともいえる TPP の問題を取り上げることは、有意義であると考えた。TPP は、生産者、消費者、政府、それぞれの立場によって見方や考え方が大きく変わってくる。そこで本単元では、TPP を単元の核となる事象として取り上げ、立場の違いによる多様な考えから、自分なりに価値を吟味・判断し、その判断に基づいた意思決定ができるようにした。

#### (2) 学習者の実態

今年度出会った5年生の子どもは、これまで、社会科が専門でない教師が担任をしてきた。4月当初の社会科授業の様子から、子どもたちの実態を、次のように捉えた。(①②:よさ ③④:育てたい)

- ① 社会的事象に関心をもち、意欲的に調べる子が多い。
- ② 資料から具体的な事実を読み取ることは、概ねできている。また、数値や様子を比較したり、関連させたりして考える力を身に付けている子もいる。
- ③ 自分の考えを分かりやすく伝えることに苦手意識をもち、思考を整理して伝える力が身につけていない子が多い。
- ④ 話し合いが自分の考えを話すことに終始してしまい、互いの考えを比較・関連・総合して考えたり、批判して考えたりして、自らの考えを再構築できる子が少ない。

昨年度までの社会科授業のノートや聞き取り調査から、子供たちは、社会科の授業において、価値判断や意思決定の授業をしたことがなかった。先に述べたように、価値判断力や意思決定力を身に付ける授業においては、建設的な議論のスキルも必要である。

しかし、それ以前に③のように、自分の考えを分かりやすく伝える表現力や、④のように話し合いを通して考えを広げたり、自分の考えを見つめ直したりして、新たな考えを生み出す力に弱さがある。つまり、価値判断や意思決定の授業を成立させる上で必要な力が、どの子にも育っていない実態があった。そこで、本単元やそこに至るまでの過程において、自分の考えを表現する力を段階的に指導すると共に、子どもの実態に合った指導・援助や、学習形態を工夫することによって正当な議論ができる力を育てることで、自分なりの判断をし、意志決定することができる子どもを育てていきたいと考えた。

### (3) 社会的価値判断・意思決定をすることができる単元構成の工夫

社会的価値判断・意思決定の授業において、子供たちが正当な議論を行い、自分なりの価値を判断していくためには、そのために必要な社会認識を習得しておかなければならない。社会的現象について自分なりの判断をすることは、個人の情意的な判断で行うことができる。しかし、それは「社会的」とはいえない。社会科において育成する価値判断・意思決定の力が、実社会において生きて働く力となるためには、科学的な社会認識を根拠とした判断でなければならない。

そこで、単元構成のイメージを、次のように考えた。

単元を構成する際には、まず、学習指導要領の目標に照らし合わせて、単元の終末で願う児童の姿を具体的に描かなければならない。次に、単元の終末に「何について価値判断をさせる

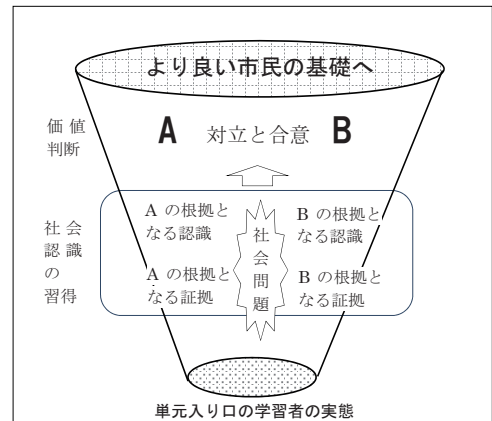


図1 価値判断の場を位置付けた単元構成

のか」を明確にしなければならない。その上で、「議論の場ではどのような対立軸が生まれるのか」を予測し、そこで活用することができる認識を、単元のどの時間で習得させればよいのかを整理していく。特に初等では、この整理をていねいに行わなければならない。どんな情報をどれだけ、どのように習得させるのかを具体的にしておかなければ、価値判断の場において、思いつきの判断や、情意的な判断をしてしまう子供が現れてしまいがちである。

### (4) 単元の構成

予想される対立軸としては、主に量（消費、輸入）・安全性・価格（・食味）の3つである。食味については、輸入米を食べた経験がない子がほとんどであり、すべての子が食べ比べる経験ができないため、主な対立軸にはなりえない。さらにこの問題は、生産者・消費者・政府の立場による違いによっても、対立軸の見方が変わってくる。次に、この対立軸をふまえて、習得させるべき認識を明らかにした。特に、TPPの概要としては、特に関税が高く設定されていた主要5品目の変化、TPPのメリットとして自動車（部品も含む）の関税を扱い、学習者の議論が分かりやすい内容に絞ることにした。また、食料自給率に関わって、外国産と日本産の価格の違いや、アメリカの米作りの様子を扱うことで、対立軸の「価格」や「安全性」の根拠となるようにした。

単元終末の姿としては、これからの食料生産は、生産者による工夫や努力だけでなく、外国とのかかわりの中で食料を確保し、同時に国内産業を守っていく必要があることについて考える姿になってほしいと願い、次のように単元構成を作成した。

時	本時のねらい	学 習 活 動	評価規準	資料・留意点
1 食料生産の問題点	わたしたちの食生活には、外国から輸入しているものが多いことに気づき、食料生産の問題点や、これからの食料生産について関心をもつことができる。	1 スーパーマーケットの売り場の写真や資料を見て、気付いたことや、考えたことを発表し合う。 2 日本の食料自給率について知り、思ったことを交流する。 3 学習問題を設定する。 日本の食料生産には、どのような問題があるのだろうか。 4 食料自給率の変化について、気付いたことや考えたことを交流する。 5 すべて国産のものを使った場合の食事の様子を見て、思ったことを交流する。 6 単元の学習問題を設定する。 これからの食料生産をどのように進めたらよいのだろうか。	自分たちの食生活には、外国から輸入しているものが多いことに気づき、食料生産の問題点や、これからの食料生産について関心をもつようとしている。 [関心・意欲・態度]	※スーパーマーケットの売り場 ※品目別の食料自給率 ※食料自給率の変化 ○単元の学習問題について予想を書く場を位置付け、単元終末の変容を自覚できるようにする。



時	本時のねらい	学 習 活 動	評価規準	資料・留意点
2 食生活の変化と自給率	日本の食料自給率が下がった理由は、食生活の変化等が原因であることに気づき、自給率を上げる方法について考えることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 昔の食事と今の食事を比べて、思ったことを交流する。</li> <li>2 学習問題を設定する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうして日本の食料自給率は下がってしまったのだろう。</div> </li> <li>3 予想を交流する。</li> <li>4 「農業従事者数」「耕地面積の変化」「輸入量の変化」の視点から調べる。</li> <li>5 全体で交流する。</li> <li>6 FOOD ACTION NIPPON について知り、自給率を上げる方法について考える。</li> <li>7 学習のまとめを書く</li> </ol>	日本の食料自給率が下がった理由について、食生活の変化等が原因であることに気づき、自給率を上げる方法について考えたことを表現している。 [思考・判断・表現]	<ul style="list-style-type: none"> <li>※日本の食料自給率の変化</li> <li>※すべて国産のものを使った食事例</li> <li>※食生活の変化</li> <li>※農業従事者数と耕作地の変化</li> <li>※食品輸入量の変化</li> </ul>
3 外国産の食品の輸入	日本の貿易の概要や仕組み、食品を輸入に頼ることによって起こる弊害について理解することができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 外国産の食品と国産の食品の価格について、思ったことを交流する。</li> <li>2 学習問題を設定する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">外国からの食品は、どのように日本に入ってくるのだろう。</div> </li> <li>3 教師と共に資料を読み取り、貿易の仕組みについて分かったことをノートにまとめる。</li> <li>4 2008年、小麦の不作による価格高騰によって、商品が値上がりしたことについて、思ったことを交流する。</li> <li>5 学習のまとめを書く。</li> </ol>	日本の貿易の概要や仕組み、食品を輸入に頼ることによって起こる弊害について理解している。 [知識・理解]	<ul style="list-style-type: none"> <li>※日本産と外国産の価格</li> <li>※貿易とは</li> <li>※品目別輸出入の割合</li> <li>※おもな貿易相手国</li> <li>※小麦の不作による価格高騰</li> </ul>
4 TPPとは	TPPの概要や、参加によるメリットやデメリットについて調べることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 TPPを報道する新聞記事を見て、思ったことを交流する。</li> <li>2 学習問題を設定する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">TPPについて調べよう。</div> </li> <li>3 諸資料から、TPPの概要についてノートにまとめる。</li> <li>4 学習のまとめを書く。</li> </ol>	TPPの概要や、参加によるメリットやデメリットについて、資料から必要な情報を読み取っている。 [資料活用の技能]	<ul style="list-style-type: none"> <li>※TPPの概要</li> <li>※賛成・反対の声</li> <li>○TPPの概要が分からない子には、教師が具体例を示しながら、共に資料を読み取るようにする。</li> </ul>
5 コメの輸入について考える①	TPPによる、米の無関税での輸入枠新設について、既習内容や諸資料を基にして調べ、自分の立場を明らかにすることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 TPPによって、米の無関税での輸入枠が新設されたことについて、思ったことを交流する。 ・米は自給できているし、必要ないと思う。</li> <li>2 学習問題をつくる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">TPPによって、米の無関税での輸入が増えることを、認めてもよいのだろうか。</div> </li> <li>3 予想し、調べる見通しをもち、追究する。  <b>【認めてもよい】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たち消費者にとっては、安いものが買えるから、輸入を進めてもよいと思う。アメリカの米はおいしいのか調べたい。</li> <li>・反対に、輸出をする量が増えると思うから、輸入してもよい。</li> </ul> <b>【認めない】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国産の米は安全かどうか不安だから、輸入はしてほしくない。米の安全性を調べたい。</li> <li>・日本は自給できているし、米の消費量が減っているから、必要ない。</li> </ul> </li> <li>4 自分の立場を明らかにする。</li> </ol>	米の無関税での輸入枠新設について、既習内容や諸資料から必要な情報を読み取り、自分の立場を明らかにしている。 [資料活用の技能]	<ul style="list-style-type: none"> <li>※単元で使用した資料</li> <li>※日本が無関税で輸入している米の量</li> <li>※TPPに対する農家の声（新聞記事）</li> <li>※輸入米の価格</li> <li>※日本の米の輸血量</li> <li>※日本の米の評判</li> <li>※アメリカ産の米と日本の米の食味値</li> </ul>
6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">本時の展開参照</div>			

## (5) 本時の展開

### 【本時のねらい】

TPPにおける、米の無関税での輸入枠新設について、諸資料や仲間との交流を通して多面的に考え、これからの米づくりや食料生産についての考えを再構成することができる。

### 【本時の展開】

選	過程のねらい	学 習 活 動	資料／研究との関連
つかむ	本時の学習問題を確認し、自分の立場を明らかにすることができる。	1 学習問題を確認する。  TPPによって、米の無関税での輸入が増えることを認めてもよいのだろうか。	※単元で使用した資料 ※日本が無関税で輸入している米の量 ※TPPに対する農家の声（新聞記事）
広げる	資料からつかんだ自分の考えを話したり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを広げることができる。	2 小集団で交流する。 <b>【量】</b> <認める> <認めない> 全体から見て、増えたのは少量。影響は少ないと思う。政府は輸入以上に購入してくれる。 コメは自給率が高い。さらに消費量も減っている。わざわざ、増やす必要はないと思う。  <b>【価格】</b> <認める> <認めない> 消費者にとっては、安くて嬉しい。どちらを買うかは、消費者が選ばばよい。 国産の売れる量が減ると、農家が赤字になって、さらに農家が減ってしまう。  <b>【安全性】</b> <認める> <認めない> アメリカ産でも、有機栽培のものがある。他の外国産の食料品は、日々食べているから変わらない。 国産の米の方が、安心して食べることができる。外国産の米も、安全とは言い切れない。	※輸入米の価格 ※日本の米の輸出量 ※日本の米の評判 ※アメリカ産の米と日本の米の食味値 ※水田の役割
深める	立場の違う考えを受け入れ、再度自分の考えを見つめ直し、表現することができる。	3 全体交流で論点を整理し、互いの意見を聞いて思ったことを交流する。 ・私は生産者の立場から、輸入を認めないという意見だったのだけれども、国の立場から考えると、国全体の利益もあるし、国が農家を守ろうとしてくれるなら、輸入を認めてもいいと思いました。	小集団交流において考えを広げ、関連付けることができるよう、教師が考えの異同を整理したり説明を促したりする。
まとめる	本時の学習を振り返り、これからの食料生産について考えることができる。	4 話し合いによる考えの変容や、これからの食料生産に（単元の課題のまとめ）について、学習のまとめを書く。 ・話し合いをして、TPPはそれぞれの立場から、良い面も良くない面もあることが分かりました。農家の人たちには、外国産に負けない米作りをしてほしいと思いました。政府も、農家を守るような取り組みをしてほしいと思います。これからの食糧生産は、TPPのように、外国とのかかわりで進めていかなければならないと思います。食料生産が下がらないように、国産や外国産を考えて買うなど、生産者や国のことも考えて、私たちにできることをしていきたいです。	より多くの仲間の考えに触れるために、タブレット端末を活用して自分の考えを表出する場を位置付ける。  TPPにおける、米の無関税での輸入枠新設について多面的に考え、これからの米づくりや食料生産についての考えを再構成している。 <関心・意欲・態度>

## 4 意志決定力をはぐくむ手立てとその成果

本項では、社会とのかかわりを主体的に考えようとする意思決定の学習と同様に、主体的に学習の場で探究をしていこうとするアクティブラーニング（以下、AL）関連についても触れながら、実践の実際について触れていく。但し、本実践で活用した小集団交流やICTの活用が、社会科におけるALの在り方すべて

を指しているのではないということをつけ加えておく。大切なことは、学習者の実態に合った、主体的・協働的な議論を成立させることである。本学級の実態を踏まえた時、小集団交流と ICT を活用することが有効だと教師が判断した上の提案である。

## (1) 小集団交流の重要性

話し合いの力に弱さがある子供たちの実態がある場合、価値判断場面において主体的・協働的な議論を行うためには、小集団で思考交流を取り入れることは有効である。学習者が主体的に話し合いを行える小集団交流には、様々な形態がある。思考を整理しながら話し合いを行うために、本時では、付箋を使ったグループ交流を位置付けた。付箋を使った小集団交流のよさを、次のようにとらえている。

### 【付箋を使った小集団交流の4つのよさ】

- i. 参加 : 考えを表現する場を保障する。
- ii. 可視化 : 自他の考えを見て考え直したり、書き込んだりする。
- iii. 相互作用 : 考えの違いが明らかとなり、多面的に考える。
- iv. 思考力・表現力 : 自他の考えを、比較・関連・総合して考え、表現ができる。

本時は、対立軸をより明確化するために、米の無関税の輸入を増やすことを「認める」意見はピンクの付箋、「認めない」意見は青の付箋に書き分けた。グループの構成は基本的には生活班を母体とした。個人追究の段階で意見に偏りがあったため、各グループに「認める」と「認めない」両方の意見が出るように、数名のメンバーを入れ替えた。また、本時に至るまでに、話し合いの進め方や記録の取り方など、小集団交流が成立するよう進行の仕方などの指導を行った。実際の授業における小集団交流の様子は、次の通りである。※記録中、Aは「認める」Bは「認めない」の意見を指している。このグループでは、C3のみBの意見もっている。

＜前略 個人の考えを全員が話した後＞	
C 1	Aの人は、Bの人に対して、どう思いますか。
C 2	私、C3さんに質問していいの？
C 2	これの（付箋を指し示しながら）外国産の米を買わない人が多いということに質問で、余る可能性があるの、そういうことがあったらどうするんですか。
C 3	お酒とか、家畜の餌とかで、使い道がたくさんあるので大丈夫だと思います。
C 1	ぼくも質問がある。外国産の米が売れないって言っているけど、安全性に不安があっても、安いからという理由で買う人も多いと思います。
C 3	（資料から）ほとんどの人が、アンケート結果で安全性に不安があるから、国産がいいという意見だったので、そういうことはないと思います。
C 3	じゃあ、反対に B の人に質問で、※①安全性が不安って言っているのに、安いから買う人がいっぱいいると思うのは、なぜですか。
C 1	いっぱいいるとは言っていないよ・・・
C 3	それに、※②買う人がいるから、農家の人が困るといったのは、なぜですか。
C 2	味とかじゃなくて、安いから買う人もいると思うからです。
C 2	それに、これ（付箋を指さして・・・）のことで、12カ国以外でも戦争の可能性はあるから、これは言えないと思います。
C 3	日本が被害を受けることが高くなりそうということです。
C 1	じゃあ、そろそろ時間だけど、結論はどうでしょうか。
C 5	まだ・・・ 結論はないんじゃないの。 （意見のまとまりを整理する・・・）
C 4	これとこれが対立してるよね。
T	どういう対立？
C 4	※③これ（米の量が余っていること）は、使い道はあるって言うけど、売れ残りがあると腐ってしまったりして使えなくなるから、対立している。 こっちは、認めないと国同士の関係が悪化するかもしれないけど、余分にあまって売れ残ったりすると、（外国の米の）価値が下がってしまって、外国に悪く思われてしまう。
T	なるほど。これは、「量」についてで、これは「外国との関係」で対立関係がはっきりしてきたんだね。



C2は、普段の授業で、全体の前で話をすることに苦手意識をもつ子である。それが、小集団交流になると、上記のように、相手の考えを理解した上で質問・反論を行い、主体的に議論に参加することができた。さらに、付箋を使って可視化したことによって、それを使いながら説明したり考え直したりする姿が見られた。これは、他の子供にも同様である。

議論の中で、子どもたちには、批判的思考力に基づいた意見も見られた。C3は、グループで唯一の「認める」という考えをもつ児童である。※①のように、Bの「安全性に不安がある」から「認めない」という意見を批判し、「安全性に不安があるから、買う人はいない」という考えを述べている。さらに、※②のように「買う人がいないのだから、米の無関税での輸入を認めても、農家の人は困らない。だから、認めたほうがよい。」という意見を述べた。その後、Aの考えをもつ子が反論できなかったが、Aの意見をもつC1やC2も、その議論では、Bの意見を批判的に見て質問していることが伺える。またC5は、意見を整理していく段階で、※③のように、それぞれの対立軸を明らかにすることができている。AとBそれぞれの意見を聞いて、問題を多面的にとらえ、意見を比較・関連して考えることを通して、「量」と「外国との関係性」という対立の関係性を理解できていた。

このように、小集団交流を位置付けることで、全体の場では議論をした経験の少ない子どもたちも、主体的に参加して、相手の意見を批判して考え、合意点を探ろうと考えることができ、問題の本質に迫ることができた。

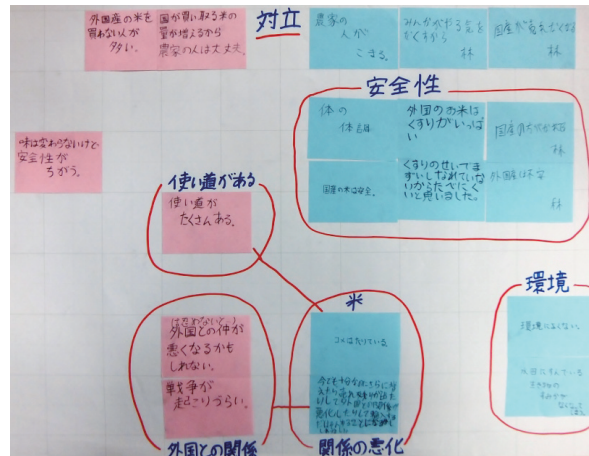


図2 小集団交流後のワークシート

## (2) ICTの活用の在り方

ALを効果的に進める一つの方略として有効に働くのが、ICTである。本校にも、40台のタブレット端末が整備され、様々な用途で学習に生かしている。児童の実態から、自他の考えを比較・関連して考えたり、さらに考え直したりする力に弱さがあったため、本時では、学習者間の思考を共有するためにタブレット端末を活用し、学習支援アプリによって学習者全員の意思を段階的に教室の大型テレビ画面に一覧にして映し出し、仲間の考えの共有化を図った。

本時は、タブレット端末に考えの変容を記入した後、次のような発言をする児童の姿が見られた。

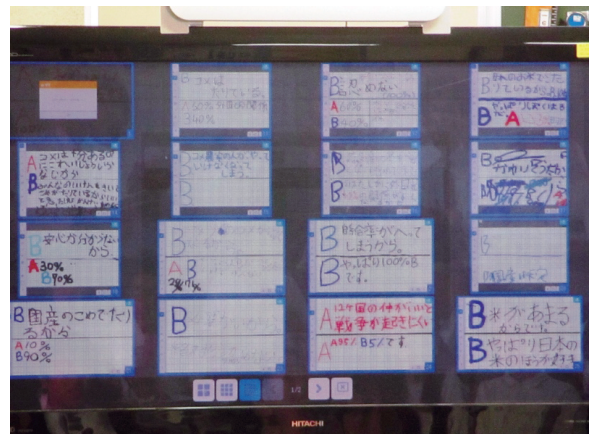


図3 モニターに映った学習者の意見

教師もタブレット端末に記入している段階でのC6の考えの変容や、テレビ画面に映し出された段階でC7の考えの変容などが把握でき、意図的指名を促すことができた。タブレット端末の活用は、子供たちの考えを一度に把握する上で、教師にとっても有効であった。また、C7の発言からは、話し合いを通してAの考えを理解し、ABの間で揺らぎながらも、初めはBの考えしかもてていなかったが、Aに考えを寄せていることが分かる。これは、小集団や全体での交流を通して、主体的・協働的に価値を吟味し合えたことに拠る部分が大きいと考えられるが、タブレット端末を活用して自分の考えの変容を明確にしたことが、その一助にはなった。また、こうした仲間の変容を共有していくことが、これから先の学習においても、自分な



	＜タブレット端末に記入＞
C	(つぶやき) Bが多いなあ。 変わった人、だれかな。
T	やっぱり B という意見が多かったのかな。 C 6 さん、話し合いの前と比べて、意見が変わったみたいだけど、考えたこと教えて。
C 6	私が B から A に変わったのは、外国産が売れなくなって、国産の売れる量が減っても、もっと国産の米の質を高めていけばいいと思ったからです。そうすれば、国産のものも売れていって、食味値もさらに上がると思うから、もし無関税になっても、農家の人たちはやっていけるのではないかと思いました。
T	それはどこから考えたの？
C 6	みんなの意見を聞いたり、黒板を見たりして考えました。
T	C 7 さんは？
C 7	初めは、B の認めないという意見だったけど、最後には、A が 40%、B が 60% になりました。B ではやはり、安全性に不安があるけど、A だと外国との関係がよくなる所がいいと思ったから、A が 40% 増えました。

りに判断したことを再度考え直し、仲間の考えを聞いてよりよい判断をしようとする資質や能力の育成につながっている。



図 4 パッドに意見を自分の考えを書く子

### (3) 社会的価値判断したことを表現する力を育成する指導・援助の在り方

子どもたちに主体的・協働的に議論を成立させるために、小集団交流における教師の支援が必要である。一方で小集団交流は、教師が話し合いの様子を見届けることができない。そのため、子ども任せになった後、議論がかみ合わなく授業を見ることがある。このデメリットを解消するためには、小集団での話し合いのスキルを身に付けさせなければならない。つまり、一人ひとりが自分の考えを整理・表現し、議論を通して考えをまとめたりしていくことが重要である。これは価値判断・意思決定の授業はもちろん、社会科授業の AL を進める中で、丁寧につけなければならないスキルである。

本時では、学習者の思考を整理し、一人ひとりが自分の考えを分かりやすく伝えられるように「思考ツール」の一つであるフィッシュボーンを用いた。魚の頭の部分には自分の判断、中骨の部分には、判断した理由、小骨の部分には資料から読み取った事実を記入できるようにした。本時のような判断場面では、個人追究で頭の部分に認める・認めないという主張、中骨の部分がそう判断した理由、小骨の部分が追究した資料(事実)となる。

	＜小集団交流の初めに、自分の考えを述べる場面＞
C 8	※④私の意見は認めるで、考えが3つあります。1つ目は、外国産の米は買わない人が多いということです。考えのもと(資料)は、外国産の米は、安全性に不安がある人が多くて買わない人が多いから、農家の人は困らないと思います。2つ目は、国の米を買い取る量が多いということです。米の買い取る量が増えれば、米作りにかかるお米もそれを使えばいいし、外国の米を買う人が少ないから大丈夫だと思います。3つ目は、使い道があることです。使い道が、主食用、加工用、家畜のエサなど、使い道はあるから8万トンも使えらと思います。
C 9	僕は、C 8 さんに反対の意見です。逆に、今でも余っているのに、輸入して増えたら売れ残りが出たりして、外国との仲が悪くなると思うからです。
C 8	C 9 さんに質問で、売れ残りが出て、外国との関係が悪くなるっていうのはどういうことですか。
C 9	いや、何で売れないんだ!とか・・・
	(C 10・C 11 うなずきながら聞いている)
C 9	だって、これ(資料:外国からの輸入量)でも余っているんでしょ?それよりもっと増えたら、なんか、また残って、捨てたりしてしまうから、外国も怒ると思うよ。(C 8、納得してうなずく)

C 8 は、※④のように、自分の考えを整理し、順序立てて説明することができた。他のグループでも、普段は順序立てて説明することが苦手な子が、C 8 のような説明をすることができていた。また、C 9 が、C 8 の意見の一部分を受けて反論をしているように、互いに思考を整理して話し合いに臨んでいるため、仲間の意見の異同がより明確になり、質問や反論の意見が出やすくなった。互いの考えの違いを理解して話し合い

に参加していたことが伺える。

一方で、話し合いの様子は、手元に調べた資料があるにも関わらず、それを使いながら説明する姿が少なかった。思考ツールを使って説明しようとするあまり、プリントばかりに目がいつってしまった。話し合いを指導する初期段階としては有効であるが、徐々に離れて、プリントがなくても、順序立てて資料を使いながら具体的に説明する姿を求めていきたい。

## 5 おわりに

本単元の学習が終わった数日後、自主学習で TPP に関する新聞記事を切り抜き、自分の考えを書いてきた子が数名いた。ある子は政府に対して批判的な考えを書き、ある子は工業生産の立場から政府を評価した考えを書いてきた。また、別の子はスーパーに買い物に行ったときに、今まで気にも留めなかった、牛肉の値段と質について考え、国産と外国産を比較していた。まさに、本単元の実践を通して、教室の学習に留まらず、社会生活に目を向けて主体的に社会にかかわろうとする姿が生まれた。

岐阜県においては社会的価値判断や意思決定の力をつけるための初等社会科学習は、実践の蓄積が少ない。AL が求められる時代において、意思決定学習は、主体性な態度が教室の中だけに留まらない。こうした学習者の態度を見ると、あらゆる知識や思考力を使って、正解のない社会問題について議論をする社会科実践は、小学校社会科のうちから真摯に研究に取り組むべきである。

今回の実践で引き続き考えたい課題を 3 点上げ、今後も意思決定型の授業について、研究を続けていきたい。

- ①価値判断をする場において、習得した社会認識を活用できていない子への対応を考えていく。  
→単元の構成をさらに分析し、どこまでが習得か、どこからが活用なのかを明らかにしていく。また、一人ひとりに定着した知識を定着させる指導方法と、ワークシートなどの支援方法を検討する。
- ②最初の意思決定段階で、「認める」が少数で「認めない」が多数であった。小集団交流において議論にならないグループも見られ、考えが偏ってしまった。  
→米づくり農家の工夫や努力について学習したことで、農家の立場からの考えが強くなったと考えられる。カリキュラム全体を見通し、他の単元とのつながりも明らかにした上で、どのような認識を習得させていけばいいのかを考えていきたい。また、全体交流での議論のあり方を今後より明確にしていく。
- ③資料を使っての具体的説明、資料を基にした議論の姿が少なかった。  
→思考を整理して、相手に分かりやすく考えを表現する力や、小集団交流も含め、話し合いを自分たちでまとめていくことができる力の系統的な指導方法を明らかにしていく。

### 【引用・参考文献】

- ・文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』2008東洋館出版社 p.12
- ・岩田一彦『社会科固有の授業理論・30の提言』2001明治図書
- ・日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』2012ぎょうせい
- ・田村学・黒上晴夫『考えるってこういうことか!「思考ツール」の授業』2013小学館